

Governance

内部統制

社会課題に対する考え方

不適切会計やコンプライアンス違反など、企業の不祥事はあとを絶ちません。一度不祥事を起こすと全ステークホルダーの信頼を損ない、その後の事業活動が困難になることも考えられます。これらを防止するため、企業には財務の健全性確保や各種法令の遵守など、さまざまな活動において、透明かつ公正な意思決定を行うための取り組みが求められています。

アンリツグループではこのような要請に応えるため、ルールや業務プロセスを整備し、適正に運用できる体制の構築と強化をグローバルに実施することが重要であると考えています。

方針

アンリツグループの内部統制システムは、財務報告の信頼性を確保すること、およびコンプライアンス体制を整備・充実することを主たる目的とし、事業内容の変化や経営環境の複雑化、多様化などに対応した改善、強化を継続的に講じています。これにより、実効性が確保された内部統制システムのもとで健全な経営活動を実践し、企業価値の向上に努めていきます。

WEB 内部統制システム構築の基本方針

体制

国内アンリツグループは、内部統制委員会が財務報告の信頼性の確保を、企業倫理推進委員会とその関連委員会(情報管理、公正取引推進、輸出入管理、環境管理などの委員会)がコンプライアンスに関する取り組みを進めています。各委員会は必要な審議を行うとともに、グループを横断した情報共有や教育施策などを通じて、内部統制システムの整備と運用およびその実効性の確保に関する活動を推進しています。グローバルで米州、欧州、アジア、そして日本の推進部門のメンバーからなるグローバル内部統制委員会を設置し、各地域の事業活動や経営課題におけるリスクへの対応状況を共有しています。これに加えて、各業務プロセスに対する内部統制手続きの組み込みを支援し、内部統制システムを効果的・効率的に強化させる活動を行っています。さらに、アン

リツ(株)の内部監査部門、グループ会社の内部監査部門、監査等委員である取締役および経営監査室が、おのこの任務に従って、各委員会などの活動および内部統制システムの評価につながる監査を実施し、関連組織へ提言を行っています。

WEB 内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況等

取り組み／活動実績

財務報告に関わる分野では、アンリツ(株)の内部監査部門とグループ会社の内部監査部門が主体となり、内部統制の有効性を評価しました。なお、2020年度の評価段階で検出された不備に対しては、適切な改善措置が実施されています。コンプライアンスに関しては、アンリツ(株)の内部監査部門が、組織改編やITシステムの更新などにより統制環境に変更が生じたプロセスを重点的に検証し、有効性を確認しました。

海外アンリツグループについては、各地域の監査担当者による監査に加え、アンリツ(株)の監査等委員である取締役、経営監査室および内部監査部門が現地に赴くなどして、内部統制の有効性を評価しています。2020年度は、アジアと欧州の一部拠点に対して、業務執行、財務報告およびコンプライアンスの状況などについて監査を実施し、有効性を確認しました。2023年度には、全海外アンリツグループが統制自己評価(Control Self Assessment: CSA)の基準を満たすように取り組んでいます。